

暮らしの中の博物館展

はじめに

この展覧会は学芸員をめざす学生が自ら企画し展示したものです。今年で 11 回目を迎えます。この実習成果展は通常、奈良教育大学の教育資料館で開催するのですが、コロナ禍を鑑みて昨年度と同様にデジタル展覧会といたしました。協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

人との交流を避けて学内より家に居ることが多くなった学生たちは、知らず知らず暮らしを見つめることになりました。展覧会のタイトルがそのことを物語っているように思えます。今回は4つのコーナーで構成されています。

1 時代と遊び

家で楽しく過ごせるようにと、玩具が注目されています。遊びには時代による違いがある面と、昔から変わらない面があります。さまざまな視点で遊びを幅広く考えます。

2 花のある生活

花は心に潤いを与えると共に、その時々感情を代弁してくれます。詩歌と食事に焦点を当てて、生活に密接に繋がる花の存在を見つめ直そうとしています。

3 墨の歴史—煤から墨へ—

記録媒体である墨を取り上げます。日本を密かに支え、奈良の特産でもある身近な墨の歴史や伝統を伝えています。

4 日本のマスク七変化

日常化した「マスク」がいつ頃から現れ、どのように変遷して今日に到っているかを調べました。これほどマスクが中心となる社会が現れるとは思っても寄りませんでした。

各コーナーには一定の独立性もあり、お楽しみいただければ幸いです。何かと不備はあるかと存じますが、ご容赦のほどよろしく願いいたします。

博物館実習担当
金原正明
巽 善信

時代とあそび

* ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... *

「あそび」と聞いて、皆さんが思い浮かべるものは何でしょう。

百人一首、凧揚げといった何世代にも渡って受け継がれているものから、ゲーム機をはじめとする最先端技術を駆使したものまで、様々なものが思い浮かぶことと思います。私達の周りには様々な「あそび」が存在しており、それらは今日に至るまで大きく変化し、多様化しています。また、「あそび」は誰しもが経験するものでありながら、それは今や子どもだけのものではありません。

なぜ「あそび」は変化してきたのか——。その理由を追求することで、当時の社会状況や環境、思想的影響まで垣間見ることができます。

本コーナーでは、主に近代に流行した玩具を中心とした展示を行い、時代に沿った「あそび」の変化を辿り、当時の様々な社会的側面について取り上げます。さらに、それらをもとに「あそび」を取り巻く未来の展望も取り上げます。

* ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... * ... *

1. 玩具の歴史

時代の流れに沿って流行した玩具の実物資料及び写真資料、それらの解説を展示し、流行玩具の歴史年表から見える当時の社会状況や技術発展についても触れていく。

① 昔の玩具

日本最古の玩具は独楽(こま)とされ、7~10 世紀のものと思われる独楽(こま)が平城京跡などから出土している。

飛鳥時代は既にお手玉が存在していた。

平安時代は双六(すごろく)・鞠(まり)・ビー玉遊び・貝合わせ・蹴鞠(けまり)・小弓(射的遊び)・打毬(だきゅう)(中央アジアから中国を経て伝わった球技)などが流行した。しかし当時は貴族の遊びであり、庶民には出回っていなかった。また、この頃に天児(あまがつ)と呼ばれる人形が登場したが、遊び道具ではなく子どもの厄除けという儀式的な意味合いを持っていた。

室町時代には貴族の女兒の遊びに抱き人形が登場した。

江戸時代には天児(あまがつ)は「ひな人形」に、抱き人形は「市松人形」に名前を変え、庶民(しょみん)へ出回った。また、上流階級の子供達は泥メンコ・こけし・独楽(こま)・けん玉で遊ぶようになり、箱根細工のようなからくり細工、お手玉の本格作成が行われた。

② 明治時代

明治時代は「文明開化」のもと、欧米文化を積極的に取り入れ、国を挙げて近代化が進められた。その中で子どもの教育やあそびに関心が高まり、「教育玩具」が登場した。明治時代後期には輸入されたブリキやゴム製玩具を真似て国内生産が開始され、1906年には国産玩具輸出高 100 万

円の大台を突破するなど、玩具産業が動き始めた時代である。また、当時は江戸時代以来の伝統的な遊び文化・郷土玩具も未だ健在しており、駄菓子屋では安価な小物玩具が売られ、子ども達の人気を得ていた。

③ 大正時代

ブリキ・セルロイド・アンチモニー等の新素材玩具が工場で大量生産され、「made in Japan」の玩具が広く海外に進出し、日本の輸出産業の重要な柱となった。また、大正デモクラシーの自由な雰囲気子ども達の遊びも多様化し、草野球・鬼ごっこ・缶蹴り・めんこ・ベーゴマ・ビー玉・おはじきなどを使った遊びが定着した。他にも子どもにとって身近な駄菓子や小物玩具が数多く登場した。この頃から『正チャン』や『ノンキナトウサン』など、大衆に支持された書籍から「マスコミ玩具」が登場し、同時に海外から来た物にも関心が集まり、キューピーや西洋風俗(ふうぞく)を真似たセルロイド製人形が人気になった。一方、『赤い鳥』など芸術性の高い児童雑誌が相次いで創刊され、お話や童謡の創作運動が展開されることで、玩具にも情感豊かなデザインが目立つようになった。大正時代は、玩具に子どもの心を育てる道具として情操の豊かさが求められ始めた時代である。

④ 昭和時代（戦前・戦後）

昭和初期の玩具は、大正デモクラシーの余韻で詩情の豊かさが特徴的である。素材としてはセルロイド玩具が一世を風靡し、国産セルロイド玩具生産額は世界第一位となった。1929年には世界恐慌によって世界規模の大不況が訪れたが、当時日本の輸出の柱とされたのが玩具だった。玩具産業はセルロイド→ゴム→金属へと主力の素材を変化させながらめざましく発展し、第一次黄金期に突入した。また、昭和初期から10年代にかけては駄菓子屋玩具の全盛期でもあった。ライダー・活動写真・竹トンボ・ベーゴマ・ピョンピョン駒などの小物玩具が勢揃いした駄菓子屋の店先は子どもたちの楽しい社交の場となった。

しかし、戦争が近づく金属・ゴムなどは統制を受け、紙・木・竹製の玩具だけが細々と作られる状態となり、やがて金属製の玩具は作られなくなった。日本中が戦争一色になり、愛国イロハカルタなど玩具も軍国調のものが数多くなった。戦争が激しくなるにつれ、玩具の素材は厳しく統制され、玩具の冬の時代に入った。

⑤ 昭和時代（戦後・高度経済成長）

アメリカの占領下の日本は輸出玩具に「made in occupied Japan」(occupied=占領された)と明記することが義務づけられ、安価な日本製玩具がアメリカに送られた。玩具産業は急速に蘇り、戦後日本の立役者として輸出産業の花形となった。更に1960年代の高度成長及びマスメディアによる大衆消費社会成立によって、玩具産業はかつてない活況を迎え、輸出玩具産業面で世界第一位となった。特にプラスチック・ビニールなどへの素材革命は玩具の大量生産・大量消費を相乗的に加速させ、日本の子ども達に主眼をおいた目新しい玩具が次々と世の中に送り出されていった。また、1973年のオイルショックを契機に、省資源・省エネルギーに対応できることや、半導体技術の採用などの技術革新と社会的要請に対応できる「付加価値の創造」という新しい課題を受け、おもちゃは更なる転換を迫られた。1955年以降は様々な電化製品が家庭になだれ込み、特にテレビの大普及の影響を受け、テレビキャラクターをテーマにしたものが商品玩具の主流となった。暮らしのハイテク化が進む中で昭和50年代にテレビゲームが発売されて人気をさらい、1983年にはファミリーコンピュータが登場し、子どもの世界にテレビゲームが定着した。

しかし、この日本経済の発展の中で古い生活様式は急速に失われ、空き地が減り、子どもたちの塾通いも始まった。これにより子ども世界が伝承してきた「原っぱ文化」の崩壊が社会問題となった。戦後の日本はめざましい発展の裏側で“喪失”の時代でもあった。

⑥ そして現代へ

以上のような流れで、玩具は社会状況に左右されながら変化してきた。1980年以降は現代の人々が広く認知している玩具が次々登場し、今に至るまで多くの進化を遂げてきている。

▼展示品紹介▼

お手玉	ビー玉	野球盤
		
<p>3点 布製 *お手玉の起源は諸説あるが、最も古い説は起源前5世紀。形・素材は異なるが、様々な国と地域で遊ばれる</p>	<p>3点 ガラス製</p>	<p>1点 縦150×横150×厚さ40mm *初代野球盤はこけし職人や家具職人が作ったため、高級玩具の1つだった</p>
<p>キノピオと宝さがし</p>	<p>おばけのQ太郎</p>	<p>ウルトラマン</p>
		
<p>1点 LEGO 高さ17×幅44×奥行41cm *デンマークの玩具メーカーLEGOのスーパーマリオシリーズの1つ。無料の専用アプリに遊び方の紹介がある</p>	<p>1点 陶器製 *藤子・F・不二雄作品の1つ、『おばけのQ太郎』に登場するQちゃんの貯金箱</p>	<p>複数点 *1966年から放送された特撮テレビドラマ『ウルトラマン』の形をした消しゴム</p>

人生ゲーム	オセロ	シルバニアファミリー
		
<p>1点 縦 30×横 50cm *人生ゲームの原型ともいわれるボードゲームは、1860年のアメリカで生まれた。実際の人生で起こる出来事を、聖書の教えに従い、「善行」「悪行」に分類している点が現在のゲームと異なる</p>	<p>1点 ABS樹脂(盤)、ポリスチレン(オセロ石) 製造年：2001年頃 株式会社パルボックス製 縦 26×横 34cm *日本生まれのボードゲーム。シェイクスピアの戯曲「オセロ」が名前の由来</p>	<p>12点 縦 21~50mm×横 11~28mm×厚さ 11~21mm *日本で誕生した玩具。現在は50をこえる国と地域に広がっている。</p>
<p>ポケットモンスター</p>		
		
<p>7点(「モンコレ」含む) 製造年：2004~2007年頃 縦 5.0×横 5.0×厚さ 5.0cm *通称ポケモン。ゲームソフトの販売から始まり、現在ではアニメ化や多彩なグッズ展開を行っている</p>		

2.なぜあそびは変化したのか

あそびは時代とともに変化してきた。なぜあそびが変化してきたのか、そしてどのようにあそびが変化してきたのかについてパネルを用いて解説する。ここでは特にゲーム機の変化とカードゲームの変化に着目し、あそびの変化から環境、経済などの当時の社会状況について考えていく。

まず、ゲーム機の変化については、現在ではゲーム機といえば家庭用ゲーム機が一般的だが、ゲーム機の始まりはアーケードゲームであった。しかし、家庭でもゲームを楽しみたいという人々の願望が生まれ、徐々に小型化が進められていく。そして、その願望によってテレビゲームが誕生したのである。家庭用ゲーム機が誕生すると、持ち運ぶことの出来るゲーム機を目指しさらに小型化が進められていくこととなる。その結果、現在ではテレビゲームや小型ゲーム機など様々な種類のもので存在するようになった。さらにゲーム機にはよりリアルが追求されていく。その結果、画質の向上や3Dのゲーム機が作られる。また、VRゲームのように実際にゲームの中の世界に入っているかのような感覚を味わうことのできるゲーム機も誕生している。このようにゲーム機は家庭で出来なかったあそびを家でもしたいという人々の思いやそれを実現するための技術の進歩によって変化してきたのである。また、ゲームは一人であそぶものだけではなく、現在ではインターネットの発達によりオンラインでゲームを通じてあらゆる場所の人たちと集団であそぶことができるようになってきている。

ゲーム機だけでなくカードゲームも変化してきた。カードゲームの始まりは平安時代にさかのぼる。貝あわせとよばれる左右の貝殻を合わせる、現在でいう神経衰弱のようなあそびが行われていた。その後、戦国時代に入ると南蛮貿易によりポルトガルからカルタが日本にもたらされる。このカルタが日本で形を変え花札や百人一首になっていくのである。このようにカードゲームは日本独自に発展したのではなく外国からの影響も受けたことで変化してきた。また、貝殻という自然のものを利用したものから紙を用いたものへと素材が変化してきたのだ。昭和に入るとカードゲームは政治の影響も受けながら変化していく。翼賛運動の影響から愛国百人一首が生まれるのである。また、素材の変化も続いていき、戦後にはプラスチック製のトランプが作られた。このようにカードゲームは外国との関わりや政治などその時代の影響を受けて変化してきた。また、カードゲームは外国から日本に入ってきたものが日本独自に変化してきたのである。さらに、技術の進歩によって天然物から紙、そしてプラスチックなどのように材質の変化によってもカードゲームは変化し続けてきた。

▼展示品紹介▼

<p>ファミリーコンピュータ</p>	<p>ゲームボーイアドバンス SP (プラチナシルバー)</p>	<p>プレイステーション ポータブル</p>
		
<p>1点 任天堂株式会社 縦 210×横 150×厚さ 445 mm、約 610g 発売日：1983年7月15日 *任天堂初のカセット交換式家庭用ゲーム機</p>	<p>1点 任天堂株式会社 縦 84.6×横 82×厚さ 24.3 mm *任天堂初の携帯ゲーム機・ゲームボーイの新しいバリエーション</p>	<p>1点 ソニー株式会社 縦 71.4×横 169.4×厚さ 18.6 mm、約 189g *ソニー初の家庭用ゲーム機・プレイステーションの後継機。</p>
<p>超じんせーエンジョイ！ たまごっちプラス (オールぴんく/オールぶるー)</p>	<p>NINTENDO 3DS (アイスホワイト)</p>	<p>Nintendo Switch</p>
		
<p>2点 株式会社バンダイ 縦 60×横 40mm *たまごっちシリーズは「デジタル携帯ペット」というコンセプトで発売された。現在も新商品が展開されている</p>	<p>1点 任天堂株式会社 縦 80.6×横 142×厚さ 21.6 mm、約 235 g 発売日：2014年10月11日 *全世界で7,594万台販売された。また、ソフトは6億8,100万本販売された。現在は販売終了している</p>	<p>1点 任天堂株式会社 縦 102×横 239×厚さ 13.9 mm、約 297g *据え置き型、携帯用、どちらのプレイスタイルにも対応している</p>

3.あそびのこれから

近年おもちゃ企業は購買層の幅が広がり、そのニーズに応えるとともに、最新の技術もおもちゃに落とし込んできた。それは単に既存のユーザーを楽しませるためだけでなく、これまでユーザーたりえなかった人たちもターゲットとし、全ての人が安全かつ平等に遊ぶことができるおもちゃを開発・販売するためである。それらを踏まえ、おもちゃのこれからについて最近の傾向や企業の取り組みをまとめるとともに、最新の技術の導入による展望を見据える。

あそびの変化でまず言えるのはユーザーの拡大である。現代では、子供間だけでなく大人もユーザーとしておもちゃを用い、遊んでいる。年齢に関係なくおもちゃを用いたあそびを享受することが一般的な感覚として受け入れられるようになってきているのは、今の大人達が子供の頃から商業おもちゃが一般化しそれで遊んできた経験があるからだろう。商品によってはターゲットを中高年層とし、企画開発されているものも増えてきている。また今の中高年層に親しみのあるレトロなおもちゃは若者にも人気を博している。

あそびを一種の文化と捉えるのは一般的なことだが、近年では古い商業おもちゃにも文化的価値があるとして注目を浴びている。価値が上昇しているのは他にもトレーディングカード等が見られるが、これらはコロナ禍による投機ブームもその価値の向上を後押ししている。

またあそびの変化としてみられるのは、多様性への配慮が一般的となっていることである。近年SDGsをその理念として掲げ活動するおもちゃ企業がかなり多くなってきている。それは商品であるおもちゃにも様々な影響が現れている。ユニバーサルデザインのルービックキューブや多様な人種・体系・身体的特徴のバービー人形などが開発・販売され人気となっている。未来のおもちゃはすべての人が平等にあそびを享受できるような仕組みを兼ね備えているのかもしれない。

最後に、あそびの大きな変化を後押しするであろうものに、VR技術の発達がある。アニメや映画でしばしば題材に挙げられていた仮想現実空間での生活がいずれ実現するであろうと言われている。Meta社が今最も力を入れている事業がメタバースという仮想現実空間の開発である。VR技術として、現代では既に視覚的な課題はクリアされていると言っていいようだが、触覚の課題がまだクリアされていない。脳波や神経系統に関連する技術が発達すると、所謂フルダイブ型の仮想現実空間は再現できるのである。

このVR技術の進化は多様性への配慮の手助けもするかもしれない。現実空間では不可能な身体運動や、知覚不可能な視覚情報をキャッチできるようになれば、身体のアドバンテージが関係なく、平等に遊べるようになるのだろう。

以上、これらの「あそび」というものは、次々に消え、次々に現れてきている、というのは少し違うようである。「あそび」にはどういった役割があるのか。あり余ったエネルギーの放出、先人の模倣、緊張の解放、仕事の練習、自己訓練、果たされなかった欲望の補償…。様々に推測できるが、ホイジンガは「あそび」により享受できる「おもしろさ」というものは、どんな分析も論理的解釈も受け付けないとしている。「あそび」は何かの為にあるのではなく、遊ぶことそのものが目的としてあるのである。この「おもしろさ」とは個人の情報処理能力に適した複雑さ、適したシンプルさがあることで最も大きくなるという。この複雑さ、シンプルさの部分をいかに工夫・発展させるかがあそびの変化の一端を担っているのだろう。工夫・発展の過程の中で、新たなおもちゃは次々と開発されていくのだろうが、これまでのあそび、おもちゃの変遷を見ていくと人間の「面白さ」への探求心は不変のものであると言えるのではないだろうか。

4.コラム『知って楽しい色々なあそび』

地域によって呼び名や内容の異なるあそびや玩具を紹介する。違いが生まれる由来など、歴史的背景にも触れながら説明する。

子どもの頃、何かを決める際に「どちらにしようかな・・・」という歌を歌ったのではないだろうか。この歌は「どっちの神様」という唱え歌であり、地域や学校によってアレンジが加えられ、全国的に様々な形式が見られる。

「凧揚げ」

凧の起源は5～6世紀頃の中国の紙鳶(しえん)というもので、戦に使われたといわれている。唐の時代には貴族のあそび道具となり、日本には平安時代に入ってきた。その当時から江戸時代までは2本の長い尻尾のある形から「イカ幟(のぼり)」と呼ばれており、江戸時代ではそれまで貴族のあそびとして親しまれていたイカ幟が大衆で大流行した。しかし、凧の墜落による喧嘩やけが人・死人の発生、大名行列に突っ込むなどの社会問題にまで発展したため、幕府が1646年に「いかのぼり禁止令」を出した。ところが、一部の江戸っ子が2本の尻尾を8本にし、「これは『イカ』ではなく『タコ』だ」と言いはってやめなかったことから、現代まで凧揚げと呼ばれるようになりました。

「めんこ」

めんこも日本各地で様々な呼び方がされている。めんこは共通語のように使われているが、「パッチン」という呼び名も同じように多くの地域で呼ばれている。「めんこ」という呼び名は東日本、「パッチン」という呼び名は西日本でよく呼ばれているが、その他にもめんこは様々な呼び名で呼ばれている。

大阪を中心に関西地方でよく呼ばれているものは「ベッタン」である。東北地方では「ベッダ」「パッチ」「ビダ」など、また他の地域では「パース」「ヤッペ」「ケン」「パー」「ベッチン」「ゲンジ」「パン」「パンパン」などがある。

2 花のある生活



【展示概要】

花は人々の生活を彩る存在として園芸や歌、家具のデザイン、料理等様々な場面で活用されていた。この展示では、詩歌と食事に着目して季節ごとに花について紹介をしていく中で、人々の生活との関係性について探っていく。

[1] 和歌について

昔の人々にとって花とは食用や薬用などといった実用するための材料として存在するものであったが、和歌により自分の感情を表すことができるようになったことにより、鑑賞する存在になっていった。また、花は、農耕社会の豊作をもたらす使者的存在として愛されていったことでその後の時代においても詩歌の中に詠まれていった。

*万葉集と万葉植物

万葉集とは、4500余首を収める日本最古の歌集である。歌がつくられたのは、飛鳥時代から奈良時代に至るまで約130年間であり、大伴家持が編纂に大きく関わっていたとされている。万葉集の歌の中に詠み込まれた植物は「万葉植物」と呼ばれその数は150~160種類もあるとされており、そのうち花が咲く種類のものは約50種類である。春の花は梅と桜、夏は橘、秋は萩、冬は梅という代表的な花がよく詠まれているのが特徴である。

*秋の七草

秋の七草は、山上憶良が詠んだ「秋の野の花を詠む歌二首」（巻八の一五三七）によって定義されたものである。この歌の内容から秋の七草は「ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ」であるとされている。

〈詠まれた歌〉

秋の野に咲きたる花を 指折（および）りかき数ふれば 七種の花
萩の花 尾花葛花瞿麦（なでしこ）の花 女郎花（をみなえし）また藤袴朝顔の花
（訳）秋の野の花に咲いている花を指折ってその数を数えれば次の七種類の花が美しい
萩、尾花、葛花、撫子、女郎花、藤袴、朝顔の花である



〈フジバカマ〉



〈オミナエシ〉

*平安時代と花

奈良時代から平安時代を通じて、長寿・吉兆のシンボル、呪術・信仰的あるいは視覚的に特徴のある植物であるサクラ・ウメ・ハギが好まれた。特に、サクラは平安時代になると詩歌で詠まれる率が急増していき、平安時代中期にはその数は最大への発展していった。この要因には、中国崇拝文化から国風文化高揚への移行が起り、花の代名詞がウメからサクラへと変化したことが大きく影響していると考えられる。また、奈良時代ですでにこなかったキクは平安時代初期～後期にかけて一定の割合で詠まれるようになった。この要因としては、奈良時代に葉として渡来していた家菊が、平安時代以降の鑑賞の対象となっていたことが関係している。

それに対し、ハギは奈良時代には最も多く詠まれていたが、平安時代にはその割合が激減し、時代区分が下がるにつれてさらに割合が低下した。今までハギは、心情を託す対象として最も好まれた植物であったが、平安時代にはこの嗜好が弱まったことが影響していると考えられる。

[2] 食用の花について

*エディブルフラワーについて

Edible(食べられる)Flower(花)の文字通り、食用花のことを指す。具体的には、農林水産省のガイドラインに基づき、毒性がなく、無農薬または低農薬で育てられた花のこと。栽培環境としては、露地栽培・ハウス栽培・水耕栽培・植物工場栽培によって分類することができる。

[3] 資料解説

1. 春の植物

◎ウメ (学名: Armeniaca mume 和名: 梅) バラ科サクラ属

中国原産の花木で、『万葉集』に登場していることから、奈良時代には既に日本で栽培されていたと考えられている。開花期は1月～3月で、白・ピンク・赤色の花を咲かせる。ウメの花は上級階級の人々によって好まれていた。

(新古今和歌集で詠まれたウメについて)

「大空は 梅のにはほひに霞つゝ くもりもはてぬ 春の夜の月」 藤原定家

(訳) 大空は梅の香にかすみながら、すっかり曇りきることもない春の夜の月よ。



◎サクラ (学名: Cerasus 和名: 桜) バラ科サクラ属

サクラという名称は、野生種15種のほか、園芸品種数で300以上もあるサクラ属の総称である。開花期は主に3月～4月で、白やピンク色の花を咲かせる。春の花木の代表で公園や街路樹をはじめ個人の庭園でも植えられるだけでなく、花を塩漬けたものが饅頭などで使用される。

(万葉集で詠まれたサクラについて)

「久方の 光のどけき 春の日に 静心無く 花の散るらむ」 紀友則

(訳) のどかな光が差すこの春の日に、どうして桜の花は落ち着きもせず散ってしまうのだろう



〈サクラの塩漬け〉

*材料

- ・サクラ 200g
- ・塩 50g
- ・梅酢大さじ 4
- ・塩 50g(保存用)
- ・キッチンペーパー
- ・重石(約 100g のもの)

*作り方

- 1 桜の花を、たっぷりの水で洗い、キッチンペーパーで水気を取る
- 2 桜と塩で、一晚漬け込んだ後、白梅酢をふりかける
- 3 重石(約 100g)をのせ、上からラップをし 3 日ほど漬ける
- 4 ざるの上にキッチンペーパーをのせ、桜の花が重ならないように広げ 3 日ほど陰干しをする
- 5 保存瓶に塩と桜の花を入れて保存すれば完成。

◎スミレ (学名 *Viola mandshurica*) スミレ科スミレ属

日当たりのよい草地や田畑のわき、堤防、道端などに生える多年草であり、4 月～5 月に開花する。

花を砂糖漬けしたものが食べられる。



〈スミレの砂糖漬け〉

*材料

- ・スミレの花びら適量
- ・卵白 1 個分くらい
- ・グラニュー糖 (多めに用意)

*作り方

- 1 スミレの花びらは 1 枚ずつばらし、洗ってキッチンペーパーなどでよく水気をふく。
- 2 卵白をしっかり溶く (泡立たないように)。
- 3 スミレの花びらを 1 枚ずつとり、全体に薄く卵白を塗り、しっかりとグラニュー糖をまぶして重ならないようにクッキングシートにならべる。
- 4 冷蔵庫で 2 日ほどしっかり乾燥させて完成。(匂いがうつってしまうので、保存するときは瓶などの密閉容器に移し替えて冷蔵庫に入れておく)

2. 夏の植物

◎ノイバラ (学名 : *Rosa multiflora*) バラ科バラ属

低地～山地の日当たりの良い場所で見られる高さ 1m～4mの落葉低木であり、開花時期は 5 月～6 月である。花には芳香があり、蜜も多く出す。



〈万葉集で詠まれたノイバラについて〉

「道の辺の うまらの末(うれ)に這ほ豆の からまる君を 別(はが)れか行かむ」 文部鳥
(訳) 道のほとりのイバラの先に、はい伸びる豆のつるが絡まるようなあなたを、後において私は行くのか。

◎キキョウ (学名 *Platycodon grandiflorus*) キキョウ科キキョウ属

東アジアに広く分布する多年草である。日当たりの良い草原に見られるが、国内ではそういった場所が激減したため絶滅危惧種に登録されている。6月～10月にかけて紫や白色の花を咲かせるが、旧暦を基準に、「秋の七草」の一つに数えられる。茎や花は食べられないが、根は古くから「桔梗根」という生薬として利用されている。



日本では親しみが薄いですが、韓国では桔梗の根は「トラジ」という食品として親しまれており、ナムルなどにして食べられる。

◎キク (学名 *Chrysanthemum morifolium*) キク科キク属

食用菊は東北地方や北海道で伝統的に利用されてきた。食用菊の代表例は青森県南部町や八戸市周辺にのみ栽培される「阿房宮」山形県の「もってのほか」(一名延命薬)新潟県の「かきのもと」などである。阿房宮は花弁をむしって蒸気で蒸した後、干して作るほし菊、大根おろしと混ぜ、二杯酢として食べる菊なます、おひたし、味噌汁、くるみあえ、からしあえがある。もってのほかとかきものもとも阿房宮と同様におひたし、なますなどがある。阿房宮ともってのほかの収穫期は10月下旬～11月上旬であり、かきのもとは9月前半～11月である。なお、菊(正式名称:家菊)は秋に花が開花し、中国から奈良時代末か平安時代初めに導入されたと推定されるため万葉集以前では詠まれていない。



<古今和歌集で詠まれた歌>

「心あてに 折らばや折らむ 初霜の おきまどはせる 白菊の花」凡河内光恒
(訳) 当てずっぽうに折るのなら折ってみようか。初霜が一面に降りたために真っ白になって、どれが花やら霜やら見分けがつかなくなってしまっている白菊の花を。

3. 秋の植物

◎キンモクセイ (学名 *Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*)

モクセイ科モクセイ属

キンモクセイは高木で開花期は9～10月である。オレンジ色の小さい花と、開花時の甘い香りが特徴的な植物である。沈丁花やクチナシと合わせて「三大香木」と呼ばれている。学名の *Osmanthus* は、ギリシャ語でにおいを意味する *osme* と、花を意味する *anthos* に由来している。花が咲いてから5日ほどで散ってしまう儂い花である。香り高い点を利用し、シロップやゼリーにして食べることができる。そのシロップを活用し、パウンドケーキを作ることできる。古くから観賞用として植えられ、秋に開花、花を陰干しして、熱湯を注ぎ歯痛に用いるが、花を薬酒にして、不眠時などに用いる。



〈シロップ漬けの作り方〉

- 1 軸を外して花だけ採取し、水でさっと洗う。
- 2 鍋に水 400cc と白ワイングラニュー糖を沸かして弱火にし、花びらを入れて弱火で 5 分煮ていき、花びらが透き通ってきたら火を止めて冷ます。
- 3 冷めたらレモン汁とコアントローを入れて冷蔵庫で保存

◎ハギ (学名 : *Lespedeza thunbergia* 和名 : 萩) マメ科ハギ属

「秋の七草」の一つであるハギは『万葉集』に最も多く詠まれており、古くから日本人に親しまれてきた植物だと言える。ハギにはいくつか種類があるが、山野に自生するヤマハギが古い種類で房状にたくさんの紅紫色の花を咲かせる。なお、ハギは万葉集で一番詠まれている植物であり、特に庶民に愛された花である。

〈万葉集で詠まれたハギについて〉

「秋の田の刈る仮廬の宿のにはほふまで咲ける秋萩 見れど飽かぬかも」
(巻八の二一〇〇)

(訳) 秋の田を刈る仮小屋が美しく照り映えるほどに咲いている秋萩は、いくら見ても見飽きないことよ



◎クズ (学名 : *Pueraria lobata* 和名 : 葛) マメ科クズ属

日本の山野を覆う代表的な草であり、古くから葛の根から取れたデンプンは、くず粉・かたくり粉など食料として使われた。カタクリは、万葉ではカタカゴとして表現されており、一首だけが詠まれている。

〈万葉集で詠まれたクズについて〉

「真田(まく)葛(ず)はふ夏野しげく かく恋ひばまことわが命常ならめやも」
巻十の一九八五

(訳) 葛が這い広がる夏の野が茂っているように、このように恋焦がれていたから、本当に私の命がいつまでもあるのであろうか。



◎ススキ (学名 *Miscanthus sinensis*) イネ科ススキ属

平地からやや高い山までの高原、草原、道端、空き地に広く見られる。日当たりの用意場所に群生して草原の主要構成種となり、様々な植物が生える礎となる。古くは「秋の七草」にも「尾花」として数えられ、十五夜の飾りとして使われるなど、人々の生活に根付いていた。草丈は 1m から 2m まで成長する。食べられるのは銀色に光る 15cm 強の穂の部分である。実がついていて、綿が無いものが食べ頃とされる。天ぷらにして食べることができる。天ぷらのレシピは一般的な作り方と同じである。



〈万葉集で詠まれた歌〉

「帰り来て 見むと思ひし わが宿の秋萩薄 散りにけむかも」

(訳) 新羅の旅から帰ってみようと思った、わが家の庭先の秋萩やススキは、もう散ってしまったであろうか。

◎ナデシコ (学名: *Dianthus* 和名: 撫子) ナデシコ科ナデシコ属
ナデシコの名はその花が可憐なので愛児 (愛しいこどもという意味) になぞらえて「撫子」となった。万葉集で詠まれている 26 首の歌のうち 11 首が大伴家持の作で、とりわけ家持が愛好した花であった。

〈万葉集で詠まれた歌〉

「坂上家の大嬢に贈る歌」(大伴家持)

わが宿に蒔きし撫子 いつしかも花に咲きなむ なそへつつ見む

(訳) わが家の庭先に蒔いたナデシコは、いつになったら花に咲くであらう。美しいあなたに見立てて眺めたいものだ。



◎サフラン (学名 *Crocus sativus*)

アヤメ科サフラン属 (クロッカス属)

形態: 多年草開花期: 10 月中旬~12 月上旬

サフランは、秋咲きのクロッカスの一種で、もともとは染料、香料、薬用として多く栽培されていたが、今は観賞用としても利用されている。パエリアやサフランライス(黄色)は、サフランの 3 裂した赤色の雌しべによって黄色になる。



4. 冬の植物

◎サザンカ (学名: *Camellia sasanqua* 和名: 山茶花) ツバキ科ツバキ属

サザンカは秋の終わりから初等にかけての寒い時期に 5 枚の花弁の花を咲かせ、翌年の春にかけて結実する。野生の自生種では花色は部分的に淡い桃色を交えた白色であるのに対し、植栽される園芸品種の花の色は、赤色や白色やピンクなど様々である。果実から採取した油は椿油と同様に用いられる。

〈詠まれた歌〉

「山茶花を旅人に見する伏見かな」井原西鶴

(訳) 初冬の寒い日に、わざわざ逢いにきてくれた人に山茶花の花びらがやさしく人を迎え和ませてくれるほのぼのとした句です。



◎ スイセン (学名: Narcissus 和名: 水仙) ヒガンバナ科スイセン属
スイセンは冬から春にかけて白や黄の花を咲かせるものが多く 15~50cm ほどの草丈のある植物だが全体的に有毒である。中国を經由して渡来したとされている。

〈詠まれた歌〉

「水仙や 寒さ都の ここかしこ」 与謝蕪村

(訳) 寒い京の冬であるが、あちらこちらに水仙の花が咲いている。



5. その他 (開花時期が長いもの)

◎パンジー・ヴィオラ (学名 Viola) スミレ科スミレ属

開花期は 10 月下旬~5 月中旬で、エディブルフラワーの代表格として知られる。パンジーとヴィオラは同種類の植物だが、花全体の大きさが大きいものがパンジー、小さいものがヴィオラと呼ばれる。平らな花を咲かせ、単色の他に服飾もあり、カラフルだ。くせが無いのでどんな料理にも合わせやすく、サラダやスイーツに使われやすい。繊維質が豊富で、βカロテンはトマトの 4 倍含まれる。



〈砂糖漬けの作り方〉

1 エディブルフラワーを用意する

2 卵白をほぐしてココット皿などに入れて、エディブルフラワーをそっと浸す

3 グラニュー糖を茶こしに入れて花の両面にまぶして一日乾かして完成。

◎バラ (学名 Rosa) バラ科バラ属

バラは、低木、つる植物であり、開花時期は 5 月~11 月の植物である。エディブルフラワーの代表格の一つとして知られる。ドライフラワーにしてお菓子に交ぜることやローズティーにして楽しむことができる。その他にも様々な楽しみ方があり、それぞれに合った品種が開発されている。

* 食用バラに適した品種…イヴピアッチェ・パパメイアン・ゴスペル



◎マリーゴールド (学名 Tagetes)

キク科マンジュギク属 (タゲテス属)

マリーゴールドは一年草で開花時期は 4 月~12 月で鮮やかな黄色や橙色の花を長期間咲かせる。栽培も簡単で、花壇の定番品目ともいえるポピュラーな花である。ボリューム感があり、マッサ植えや花壇の縁取り、コンテナ植えなど、広い場所から小さなスペースまで、華やかさを出すには好都合な草花であり、品種も多い。



〈レシピ「マリーゴールドのカルフォルニアロール」〉

＊材料

- ・マリーゴールド（食べられる花）
- ・酢飯 1 合分
- ・アボカド 1/2 個
- ・サーモン 50g くらい
- ・クリームチーズ大さじ 2
- ・のり 2 枚

＊作り方

- 1 マリーゴールドはがくをとって花びらをばらして、アボカド、サーモンは細長く切っておく。
- 2 海苔に酢飯 1/2 をまんべんなく敷く。
- 3 巻きすの上にラップをしき、3 を上下ひっくりかえして、海苔が上にくるようにおく。
- 4 海苔の中心に具をならべ、巻きすごとしっかり巻く。
- 5 ラップをはずし、外側の酢飯の面にマリーゴールドのはなびらを全体にまぶす。
- 6 もう一度ラップできゅっと巻いて形を整え、15 分ほどおいてなじませて切る。

◎カモミール（学名 *Matricaria chamomilla*）キク科コシカギク属（シカギク属）

カモミールは、一年草で3月～6月にかけて開花する。中でもジャーマンカモミールは、ヨーロッパ、特にドイツで薬用にされる一年草のハーブである。白い花にはリンゴのような香りがあり、風邪、頭痛、下痢などに薬草茶として利用されてきた。抗炎症作用がある成分カマズレン、アピゲニンを含み、ストレスによる胃の痛みなどにハーブティーとして飲用される。



〈カモミールティーの作り方〉

＊材料

- ・カモミールの花大さじ 1
- ・水 200ml

＊作り方

- 1 ボウルにザルを重ねて水をためる。カモミールの花を沈めて軽く押し洗いしたら水を切り、キッチンペーパーで優しく挟み込んで水気をふき取る。
- 2 お湯を沸騰させたら火を止めて、そのまま 30 秒ほどおいて冷ます。カップまたはポットに茶こしをセットし、カモミールを入れる。
- 3 カモミールにかけるようにお湯を注ぎ、ふたを閉める。5～7分待ったら完成。

【出品リスト】

出品名	形態	出品名	形態
ウメ	写真・梅干し	ススキ	生花
サクラ	造花	サザンカ	ドライフラワー
スマレ	写真	スイセン	造花
ノイバラ	写真	パンジー（ヴィオラ）	造花
キキョウ	写真	サフラン	写真
キク	押し花	バラ	写真

出品名	形態	出品名	形態
キンモクセイ	シロップ漬け	マリーゴールド	写真
ハギ	押し花	カモミール	写真
クズ	写真・吉野本葛	ナデシコ	押し花

【参考文献】

- ・知る・育てる・つながる みんなの趣味の園芸 NHK 出版 HP 取得日 2021 年 11 月 30 日
https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-4
- ・ノイバラー植物図鑑－エバーグリーン 取得日 2021 年 11 月 30 日
<https://love-evergreen.com/zukan/plant/9074>
- ・はじめての万葉集 vol.34 県民だより奈良 平成 29 年 2 月号 奈良県公式ホームページ
最終閲覧日 2021 年 11 月 30 日 <https://www.pref.nara.jp/46039.htm>
- ・化学農薬不使用のエディブルフラワーの卸・通販・研究開発 EDIBLE GARDEN
取得日 2021 年 10 月 14 日 <https://ediblegarden.flowers/>
- ・エディブルフラワー専門店 HanaLabo 取得日 2021 年 10 月 14 日 <https://edibleflower.jp/>
- ・All About 20th 暮らし桜の塩漬けレシピ！ご飯にもお菓子にも映える花料理の作り方
取得日 2021 年 11 月 22 日 <https://allabout.co.jp/gm/gc/43690/>
- ・Pinch of HERB カモミールティーの作り方 | おいしく作る方法・葉と茎の利用法もご紹介
取得日 2021 年 11 月 22 日 <https://pinchofherb.com/chamomile-tea-2/>
- ・農林水産省 HP 取得日 2021. 11. 22 <https://www.maff.go.jp/>
- ・みんなの農業広場 HP 取得日 2021. 11. 22
<https://www.jeinou.com/benri/vegetable/2009/02/160918.html>
- ・斎藤正二「菊と日本人」（『週刊朝日百科植物の世界』）
- ・NHK テキス view 『万葉集で最も多く詠まれた花、ハギ』取得日 2021 年 11 月 26 日
<https://textview.jp/post/hobby/42934>
- ・『NHK 趣味の園芸』連載「万葉の花」2020 年 9 月号
- ・『学習図鑑携帯版植物』（1977）旺文社
- ・七海絵里香，森崎翔太，大澤啓志(2013)『万葉集および平安期の勅撰和歌集にみる植物
に対する行為』
- ・季語と俳句鑑賞ノート取得日 2021 年 11 月 26 日 <http://haikukigo.lalalan.com/node/115>
- ・小倉百人一首の全種をみる-Poets Search- 取得日 2021 年 11 月 26 日
http://www.samac.jp/search/poems_detail.php?id=29
- ・金田文弘「食品としての花と花食文化」『日本食品工業学会誌 第 38 巻 第 9 号』
1991 年 9 月発行 pp874～880
- ・入江泰吉写真・中西進文『入江泰吉万葉花さんぽ』小学館 2003 年 5 月発行
- ・高樋龍一著『萬葉植物の検索：その歌、その植物、その花と実と』近代文芸社
2001 年 4 月発行
- ・桜井満著『万葉の花：花と生活文化の原点』雄山閣出版 1984 年 11 月発行

3 墨の歴史—^{すす}煤から墨へ—

私たちがふだん使う筆記用具の中でも「書くもの」はさまざまある。「書くもの」のうち古くから書物や絵画等には墨と筆が使用されてきた。墨は我が国の歴史を書き記してきた極めて重要な筆記材であると言える。私たちが今歴史を振り返り学ぶことができているのは、ひとえに墨で書かれた文字が残っていたからである。そして、ここ奈良には製墨の文化が根付き、今もなお受け継がれている。小学校教育の中でも「書写」があったことを思い返すと、実は馴染み深い文化なのかもしれない。この展示では、日本という国を密かに支えてきた身近な文化である墨について理解し、歴史や伝統文化に触れるきっかけとしたい。

展示構成

1. 奈良の伝統産業
2. 墨の原料・製法
3. 墨・奈良墨の歴史
4. 墨の用途



展示資料

1. 奈良の伝統産業

長い歴史の中で多くの戦火や火災を免れ 1300 年の歴史をもつ奈良の地には、長い歴史の中で培われた優れた伝統工芸品が数多く伝えられており、私たちの生活に豊かさと潤いを与えてくれている。そのなかでも奈良墨（ならすみ）は奈良筆とともに国指定伝統的工芸品に指定され、その伝統は今もなお受け継がれている。



奈良の国指定伝統的工芸品である奈良筆（左）と高山茶筴（^{ちやせん}右）

奈良墨とは奈良県奈良市で生産されている墨のことである。日本国内における固形墨のほとんどが奈良墨とされ、国内シェアは95%に上る。その製法は1400年に渡って職人の手によって受け継がれ、書の歴史と共に歩みを進めてきた。奈良墨の制作工程には墨職人の繊細な技術が必要なため機械化できる作業がなく、今もなお手作業で行われている。

2. 墨の原料・製法

○原料：煤（すす）と膠（にかわ）と香料の3つである。

・煤

松煙墨（しょうえんぼく）と油煙墨（ゆえんぼく）の2種類がある。赤松の木を燃やして採取する煤から製造した固形墨を松煙墨といい、菜種油などの油を燃やして採取する煤から製造した固形墨を油煙墨という。



純松煙粉（1g）と油煙粉

・膠

膠は動物の皮、骨やニベ（外皮と肉質との間にある結合組織）を煮出してできるゼラチンを固めたものである。膠の役割は煤の粒子を固めて墨の形に整え、墨の液にすられてからは煤と水という本来なじまないものをなじませ、適度な粘りを与えて伸びを良くし、紙に移っては煤を紙に定着させつやを与えていわゆる墨の色をつくり出す。また、膠はゼラチンという蛋白質で、腐敗しやすいため、冬期しか墨をつくれぬ理由がここにある。

・香料

膠には本来悪臭があり、この悪臭を消すために香料を使用した。それが次第に精神の安定、典雅を望むことが強くなり、良墨は芳香をもつということに進んできた。香料は墨を磨る気分にふさわしく、落ち着いたものが選ばれ、龍腦（りゅうのう）が代表的である。



膠と香料の龍腦（じゃこう）

○製法

① 膠を溶かす

膠を溶かすには湯煎（ゆせん）という方法で行なう。熱湯をわかした釜のなかに膠と水を入れた器をつける二重釜で溶かす。

② 練り合わせ

膠が炊けたら煤と充分練り合わせる。煤、膠液、香料をニーダ（攪拌機）に入れ粗練りし、餅のようになった墨玉を、もみ板の上で、手もみ、足ねりで充分練りあげる。

③ 型入れ

充分練り上がった墨玉をちぎって天秤はかりで計り、さらによく練り、木型に入れてプレス機にかけ、圧縮し墨の形をつくる。

④ 乾燥

充分練り上がった墨玉をちぎって天秤はかりで計り、さらによく練り、木型に入れてプレス機にかけ、圧縮し墨の形をつくる。

⑤ 水洗い・磨き

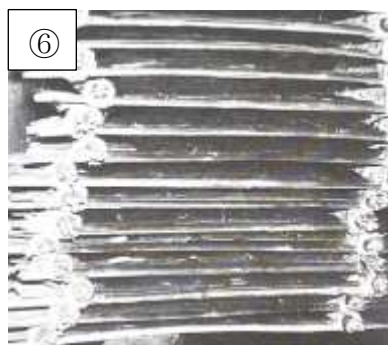
墨が乾き上がったら、乾燥中に付着した灰やわらを水洗いして、上薬をかける。墨の表面仕上げには、つや消し（生地仕上げ）とハマグリ貝でつやを出す（光沢仕上げ）がある。

⑥ 再乾燥

磨き終わった墨は再び乾燥室に入れ、井型に棧積み（さんずみ）して1ヵ月置く。

⑦ 仕上げ

表面の文字や絵柄に彩色し、箱に収め包装して完成する。

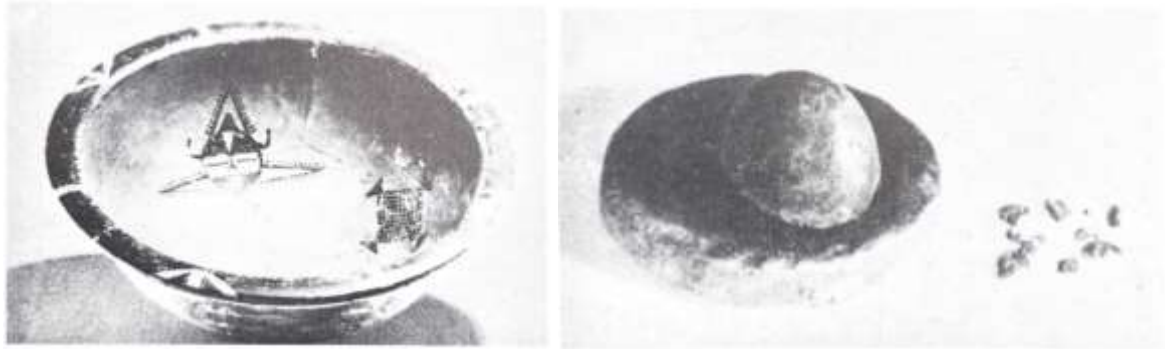


製墨の手順

3. 墨・奈良墨の歴史

○墨の歴史

墨の起源は約 3500 年前の中国・殷の時代にさかのぼる。甲骨文に墨書や朱墨の跡が発見され、墨書された木簡や竹簡が多数出土している。漢の時代には、墨は小さな墨丸（ぼくがん）といわれる球形のものであったと推測される。当時の硯は墨池のない平面の物が殆どで磨石がついており、この磨石で平面硯の上で小さな墨丸をすり潰したようだ。後漢である 105 年に蔡倫（さいりん）が紙を発明し、これに伴ない墨の需要が急速に高まり、現在ある墨の原形となるものが生れ、唐の時代には今日の墨の形が整えられた。



彩陶（陝西省半坡出土）と硯と墨丸（江陵鳳凰山 168 号漢墓出土円石硯・磨石・墨片）（右）

この頃には中国、朝鮮半島、日本の交流は盛んになり、当時の墨が日本に伝来し、正倉院に今もなお宝蔵されている。日本の墨についての最初の記録は、『日本書紀』第二十二巻であり、「十八年春三月、高麗（こま）の王、僧曇徴（どんちょう）と法定（ほうじょう）とを貢上（たてまつ）りき。曇徴、五経を知り、またよく彩色及び紙墨を作り・・・」（推古天皇十八年は西暦 610 年）と記載がある。奈良時代に入ると仏教が大いに興り、写経生たちは膨大な量の写経を行ない、中でも墨は貴重品扱いされていた。正倉院には、現存する最古の墨（墨 14 丁、白墨 2 丁）が保存されている。平城京では、図書寮（ずしょりょう）において造墨手 4 人で 400 丁余りの墨がつくられていた。平安時代に入ると仮名文字が発明され、文字が一般化されて墨の需要が一段と高まる一方で、時代の変遷と共に次第に、丹波や播磨をはじめとする全国各地でつくられていた製墨も途絶えて行く。



墨（第二号 正倉院中倉）表と裏

墨と筆（平城京出土）

○奈良墨の歴史

・奈良時代

後期に和束で粗製松煙墨が初めて製造され、同時期に針間（播磨）でも造墨に着手された。墨は主にこの2地点で生産された。しかし、平安京遷都で南都仏教が肅清されると和束の造墨は中止された。針間の造墨は平安時代初期まで続いた。

・平安時代

末期には松煙墨を作って都へ供給していたのは丹波国のみであり、他の地方へ供給するゆとりがなかった。そこで大和では東大寺供油田が設けられ、荏胡麻油が作られた。手軽に手に入る荏胡麻油を用いて造墨されるようになった。南大和では仏教信仰が深く根付き、寺僧や名主たちによって写経用の墨（油煙墨）が製造された。

・鎌倉時代

初期には油煙墨の製法が確立した。興福寺では春日版が開版され、印刷に油煙墨が用いられていた。興福寺二諦坊では持仏堂の灯し火によって溜まる煤を集めて油煙墨を作っており、二諦坊が兵火で焼失しても製墨は続けられ、明德・応永（1390~1428）頃に最も盛んに製造された。

・南北朝時代

興福寺も大衆も南北二派に分裂したが、二派に分かれても油煙・油煙墨の大口需要家が興福寺であることから、製墨の地は巻向から奈良へ移った。南大和の製墨は南北朝の動乱で途絶えた。応仁の乱（1467）前後から奈良の町が栄え、油煙墨の製法も今日の域となった。

・江戸時代

8代将軍・吉宗の時代には紀伊の藤代墨（松煙墨）が再興し、幕府用命となった。奈良の墨屋はこれに対抗し、各地から灰を仕入れて奈良松煙墨の品質改善を図った。この後「南都油煙墨」は「奈良墨」と看板を改め、松煙墨・油煙墨ともに他国を抑えて特産品となった。老舗の墨屋には大坂・京・江戸の三都に出店する所が現れた。

・明治・大正時代

奈良の墨屋は農閑期に伊勢、但馬その他から出る出稼ぎ人を製墨職人として受け入れ、操業することが一般的となった。

・昭和

軍需産業のみが拡張を続け、製墨をはじめとする奈良の商工業は縮小を余儀なくされた。ガラスペンや万年筆の需要が盛んになる一方で毛筆は振るわず、重油の配給が減り奈良墨は衰退の危機となった。戦後、製墨業の再興はすぐに行われなかった。昭和24（1949）年12月21日になり、奈良製墨協同組合が成立した。製法は、昭和年代に古来の土器採煙からチャネル採煙に切り替えられた。上蓋をステンレス製にして電力で回転させるも

ので、能率的に採煙できるようになった。昭和 50 年には墨職人の減少を打開しようと試みられた。兵庫県養父郡に分工場が開かれ、古梅園の古参職人が出身地の但馬へ戻って地元の青年たちを指導して墨作りを行った。

・現代

液体墨や他の文房具の台頭による固形墨の需要の低下・職人の減少という課題がありながらも、伝統産業として固形墨の製造が続けられている。





近畿周辺図



松煙取りの図 (蒔 関月 画『日本山海名物図会』寛政 11 年)

4. 墨の用途

固形墨と墨汁（墨液）の原材料等比較

	煤	接着剤	防腐剤
A 固形墨 	植物油の煤 (松煙・油煙)	膠 (動物の骨・皮・腱より)	樟脳 香料
B 昔の墨汁	植物油の煤	膠 (鯨皮など)	? 初期には腐って返品が相次いだ
C 今の墨汁 	カーボンブラック ①アメリカからの輸入品 石油採掘時に噴出する天然ガスの 不完全燃焼での産物 ②日本産 気化したナフタリンを燃やしたもの	合成樹脂 ポリビニルアルコールなど	種々の化学薬品

墨汁には、天然膠性と合成樹脂性と呼ばれるものがある。動物の皮，骨，腱，内臓膜を主要原料とし，コラーゲンを含むゼラチンを主成分とするタンパク質の一種である膠は腐りやすいため、磨られた墨も保存が難しいため防腐剤を含む墨汁が生み出された。

○写経



写経は、日本に仏教が伝来してきたとともに経典を書写するという仏法を広めるために行われてきたが、のちに写経することで功德があるといわれるようになった。

国宝 金光明最勝王経 卷第一（国分寺経）奈良国立博物館
奈良時代（8世紀）

○水墨画

水墨画は中国の唐の時代に墨と筆が生み出され、日本には鎌倉時代に僧侶によって伝わったとされている。当時は高級舶来ものであったが、日本で墨や筆が作られるようになってからは、これも庶民の画風となり日本独特の流派などが形成され、全国に広まったとされている。



雪舟筆 紙本墨画淡彩 89.5×169.5cm 室町時代（1501～1506）国宝 A 甲 228

出品リスト

- 1) 膠 個人蔵
- 2) 純松煙粉 絵具屋三吉 個人蔵
- 3) 油煙粉 ケインドレイク 個人蔵
- 4) 松煙墨 一心堂 個人蔵
- 5) 墨汁 DAISO 個人蔵
- 6) 書道セット 個人蔵

参考・引用文献

- 1) 松井茂雄（1983年）『The 墨：墨は生きている』日易出版社
- 2) 山田鴻一郎（2000年）『奈良製墨文化史』奈良製墨共同組合
- 3) 奈良国立博物館（2021年）『第73回「正倉院展」目録〔令和3年〕』仏教美術協会
- 4) 奈良製墨組合 HP <http://www.sumi-nara.or.jp/>
- 5) 錦光園 HP <https://kinkoen.jp/>
- 6) 墨運堂 HP <https://boku-undo.co.jp/>
- 7) 奈良県公式 HP ならの伝統工芸 <https://www.pref.nara.jp/1366.htm>
- 8) 京都国立博物館 HP 名品紹介 天橋立図
<https://www.kyohaku.go.jp/jp/syuzou/meihin/suibokuga/item01.html>

調査協力

- ・ 錦光園 〒630-8244 奈良県奈良市三条町 547
- ・ 墨運堂 〒630-8043 奈良県奈良市六条 1 丁目 5-35
- ・ 笹川文林堂 〒630-8224 奈良県奈良市角振町 22

4 日本のマスク七変化

日本では、2021年11月過去最多感染者数となった新型コロナウイルス「第5波」がようやく収束したのも束の間、世界規模での新変異種オミクロン株の流行や「第6波」に備えた行動規制にともない、まだまだ先行きの見えない状況が続きます。

コロナウイルスの感染経路は主に飛沫感染と考えられ、感染者の口や鼻から咳や会話の時に、飛沫や更に小さい粒子(エアロゾル)を吸収するか、直接的な接触により感染します。このような2020年以降のコロナ禍で、政府は長期にわたる感染拡大を防ぐために「新しい生活様式」の実践を提案しています。その基本的感染対策の1つにマスクの着用が挙げられ、これは広く一般化したと言えるでしょう。現に感染者数がゼロでも外出の際にはマスクを着用する人が多く、もしかしたら、あなたはマスクを付けながらこの文章を読んでいるかもしれません。それ程にマスクの着用は習慣化し、日常の見慣れた光景となりました。

このコーナーでは、日常化した「マスク」という道具、危険物質を防御するための「マスク」が一体いつ頃から現れ、どのような変遷で現代に用いられるようになったのかをテーマにしています。

日本でのマスクに関わる最も古い記録の1つに明治12年2月(1879年)のいわしや松本市左衛門の広告があります。レスピラートル(呼吸器)の呼称で「船来の品種にも劣らず病気を防止する」との説明と共に、挿絵には男性二人がマスクをしている様子が描かれています。(図1)この記録を皮切りに、日本でマスクがどのように受容され時代の中で変容したのか、そして、変化が著しい現代のマスクの多様性に焦点を当てます。



図1 いわしや松本市左衛門「呼吸器広告」1879年 宮武外骨編『文明開化(第2 廣告篇)』半狂堂、1925年、69頁より抜粋

マスクの歴史

① 第 1 世代 (19 世紀末)

現存する一般大衆マスクとして国産最古のなるマスク。当時はマスクという名称ではなく呼吸器（レスピラートル）と呼ばれていました。現在のように予防のためではなく、炭鉱や工場、建設現場などでほこりや防塵を防ぐ「工場 マスク」として登場しました。真ちゅうの金網に布地を張り付け、金属の網と布で空気を濾過（ろか）しています。これ以降に口を当てる部分のメッシュに主に金属や麻と思われる素材を用いたマスクが作られるようになっていきます。



② 第 2 世代 (1910 年～1920 年頃)

第 1 世代のマスクに続いて材質にセルロイドが使われ始めるようになる。箱絵のデザイン、子ども用マスクなどもつくられるようになり、マスクが大衆化していきました。「マスク」という言葉はこの時期に登場し、外国語を好む国民性と合わせて広く普及します。この時期のマスクは現代で使われるブリーツ型 マスクに繋がる形のものです。



〈スペイン風邪とマスク〉

1918 年からスペイン風邪が流行しました。スペイン風邪とはこの時期に世界で流行ったインフルエンザのことを指します。この感染症は世界での死者数が第一次世界大戦の死者数よりも多いとされています。当時の日本の人口 5500 万人中 2350 万人が感染しました。このうち、第一波では日本の人口の約 3 分の 1 が感染し、第二波では、強力なウイルスとなり死亡率が高まるなど日本でも猛威を振るいました。

	日数	実数		30日あたり1日		30日～10万人あたり		死亡率 (%)	
		患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数		
第1波	1918年8月～1918年7月	369,015	21,168,398	257,369	1,739,899	21,154	3,042.2	37.0	1.2%
第2波	1918年10月～1920年7月	279,015	2,412,097	1,27,688	263,136	13,930	460.1	34.4	5.3%
第3波	1920年8月～1921年7月	369,015	224,178	3,696	18,426	304	32.2	0.5	1.6%
合計	1918年8月～1921年7月	1,007,045	23,804,673	388,754	710,567	11,605	1,242.5	26.9	1.6%

出典：内閣府健康局「流行性感冒」2003（平成15年）より作成
 注1：流行日数が異なるため、単位あたりに調整した数値を示した。
 注2：「流行性感冒」に掲載された1918～1919年のデータを参照した。
 注3：死亡者・死亡者数・死亡率

政府は予防対策にマスクをすることを徹底しポスターで手洗い・うがいを呼びかけました。また、スペイン風邪が流行している場所へは出かけない、感染した人は自宅に隔離するなど今のコロナで行われている方法がとられています。このスペイン風邪によってマスクはひろく普及し、私たちの生活により身近なものとなっていったのです。

③ 第 3 世代 (1920 年～1930 年頃)

空気力学的に抵抗の少ない波線形のデザインが出てきました。それまでと比べると箱のデザインがスマートでスピード感にあふれるものが登場します。



第 3 世代のマスクは第 2 世代のマスクよりも製造工程や成型が簡単で手間のかからない、材料費や製造コストも少ないものです。マスクをかける動作も楽になり、デザイン性に優れたものが多くなります。この時期のマスクは現代にある立体型マスクへと繋がる形になります。

④ 第 4 世代 (1930 年～1950 年頃)

戦争によって物資不足から製造も簡単でコストもかからない簡易なマスクが作られるようになります。この時期のマスクは病気からの感染を防ぐものではなく、火災や空襲などの焦げた匂いから口を守るものとして使われていきます。戦時中は敵国語を使わないということがありますが、決まった規則はなかったため「マスク」という言葉はこの時期も使われています。



⑤ 第 5 世代 1980 年代以降

1980 年からの花粉症を背景に使い捨ての不織布マスクが大衆に受け入れられました。不織布タイプは多様化に重要な機能付与を容易にし、これをきっかけにマスクは大衆消費物資として機能分化を強めることとなります。一方高級品化と一般向け(大衆向け)廉価品の普及化へと差別化が進み二極化し、宝石を配した高級品も作られます。1990 年頃以降では、これまでの物資の不足による国のための陳腐なマスク、便利さを優先した消費物質の大量消費から、商品を地球の物資は有限という広い視野のもと持続可能な社会を展望した上でのマスクへ変化しつつあります。2000 年以降はマスクの制作に消費者の声も取り入れられ始め、クラウドファンディングなど生産者と消費者の調和が進んでいます。

2020 年, コロナによる需要の増加が起こり. 使い捨てマスクが浸透していたためマスクが不足し, 洗濯して繰り返し使えるマスクや手作りマスクが再び発展し, アパレル企業でもファッションアイテムとしてマスクが販売されるようになります。

実物資料は不織布マスクの機能分化 6 割程

その後増えた繰り返し使えるマスク が 4 割程です。

展示品解説

現在流通しているマスクの展示を行います。形態が類似していても、機能性や特徴はそれぞれ異なり多様化していることが分かります。政府が 2020 年 4 月から全戸配布を行った布製マスク(俗称 アベノマスク)は、コロナ禍を象徴する歴史資料となりえます。また、市販マスクとファッションアイテムとしてデザインされたマスクを比べることで、同時代の遷移を辿ることができるのではないのでしょうか。

品名：やわらかマスク 16.5×9 アイリスオーヤマ株式会社

本体、フィルター ポリプロピレン

耳掛けひも ポリエステル、ポリウレタン

ノーズフィッター ポリエチレン

顔の外側に切れ目を入れることでフィット感を上げたマスク。

使い捨ての不織布マスクは洗うことを想定しないので、

素材の摩擦耐性や耐久性をあまり重視せずに

安易に機能付与ができる。



品名：リブふわWマスク

リブ・ラボラトリーズ株式会社

サイズ 約 14.5×9.5cm65 枚入り

本体:ポリプロピレン

耳ひも:ポリウレタン、ポリエステル

予防の目的等でのマスクの着用は着用時間の

長さにより、耳が痛くなるため耳にかける紐の幅を

広げ、力を分散させたもの。マスクと顔の隙間を減らすため、

個人の顔の形に合わせて変形できるワイヤーを

鼻上と口周りに二つ採用されている。



品名：ふんわりフィットマスク

有限会社 エージェントワン

サイズ 約 17.5×9.5cm

本体・フィルター:ポリプロピレン

耳ひも・ポリウレタン

外見からは分かりにくいがつけやすさ、

肌触りなどが改良された不織布マスク。

目立った特徴はないが、

そこに汎用性の高さという価値を見出せる。



品名：ハイドロ銀チタンマスク

14.5×9 DR.C 医薬株式会社

本体、フィルター ポリプロピレン ポリエステル

ポリエチレン 耳掛けゴム ナイロン、ポリウレタン

ノーズフィッター ポリエチレン

カップキーパー ポリプロピレン

不織布に抗ウイルス機能を付与したマスクで、独自の技術としてハイドロ銀チタンシートがあるが、令和元年の景品表示法第7条第1項の規定に基づく消費者庁の措置命令で有害な物質を化学的に分解して水に変えるというような記載が問題となり、現在その効果は詳細には記載されていない。

QRコードで詳細な情報があるが、

証明に足りる論文、実験データ等の記載はない。



品名：のどぬーる濡れマスク無香料小林製薬 13.5×11.5

素材： ・本体： ポリプロピレン

・耳ゴム： ポリエステル、ポリウレタン

・ぬれフィルター：パルプ、レーヨン、ポリエチレン、パラベン

ぬれフィルターによって鼻と口の乾燥を防ぐことで快適さが売りだが、防御の視点から見ると人間の本来備わった粘膜の働きを正常に保ち、ウイルスや細菌の進入を防ぐことが出来るため、マスクで防ぐことに加えて人体を正常に保つことで防御するという一面も持つ。使い捨てマスクとしては一枚あたりの値段が高価。



品名：アベノマスク 政府より 9.5×13.5(ネット調べ)
綿 100%

ガーゼ生地を 12~16 枚重ねにしたマスクで、
ガーゼは不織布に比べて目が粗いがマスク不足を補う
再利用可能なマスクとして 1 住所当たり
2 枚ずつ配布された。



品名：エアリズム 子ども S (18×12) ユニクロ
表 ポリエステル 75% ポリウレタン 13 キュプラ 12
裏 ナイロン 59 キュプラ 31 ポリウレタン 10
フィルター ポリプロピレン

エアリズム素材でマスクを商品化してほしいという
「顧客の声」をもとに開発が進められ、顧客の意見から
『マスクとしての防御性能』『洗濯可能』『つけ心地』という
3つのポイントを重視したマスク。ユニクロの技術をマスクに
適応させたマスク。家族全員がつけられるようにしたいとの
声も反映されたようなサイズ展開である。



品名：540805 お好みのサイズに調整して使用できる、
抗菌・洗えるマスク

メーカー：AOKI
サイズ／フリー（男女兼用）
寸法／約 W10.0×H14.0cm
耳紐の長さ／約 24.0cm
色／白

材質／外層：ポリエステル 100%、
内層：ポリエステル 65%・コットン 35%
生産国／ベトナム

1 パック＝5 枚

※寸法は折り畳み時。

夏の使用を想定した UV カット機能や洗濯可能、
蒸れにくい仕様などがあり、日本人の顔に合わせた
立体縫製がなされている。



品名：THE MASK

ブランド名「RYO TAKASHIMA」

サイズ 22×16cm

カラー ベージュ

素材 コットン 100%

統一された色と素材のシンプルなデザインで
耳にかける紐は、サイズ調整ができる
ところからも大人なら誰でも使えるように
作られている。耳紐のあまりの部分にリング
をつけることでサイズ調整機能による
不自然に余る紐を逆にデザインとして
取り入れている。



品名： URBAN AIR MASK 2.0 - Onyx Black

ブランド名 AIRINUM (エリナム)

マスク本体(1個) ・フィルター(2枚)

・ヘッドストラップ(1本)

・バルブ(1組2個) ・収納ポーチ(1個)

L 縦17cm 横最大 22cm (男性・大きめ)

素材

・マスク本体： 100% ポリエステル

・縁/イヤーループ： 94.8% ポリエステル 5.2% ポリウレタン

・バルブ： 100% ABS 樹脂

・ヘッドストラップ： 90% ナイロン 10%ポリアセタール

・フィルター： 80% ポリプロピレン 12.5% ポリエステル

7.5%炭素繊維

・バルブ：100% ABS 樹脂 100% シリコンゴム

共同創始者が喘息で共同創始者は喘息で機能性とデザイン性を兼ね備えたマスクを求めたことから開発が始まった、大気汚染などから身を守る高機能マスク。フィルターを厚くすることによる息苦しさを軽減するために、バルブを使った排気が可能。

しかしこれはコロナ流行以前からある身を守るためのマスクであるため、コロナ対策のような感染拡大を防止する役割としてはこのバルブはむしろ呼気がバルブから排出され、周囲の人々に到達する可能性があるため、コロナ以降バルブを塞ぐアタッチメントやバルブがないものも登場している



出品リスト

1. やわらかマスク
2. リブふわWマスク
3. ふんわりフィットマスク
4. ハイドロ銀チタンマスク
5. のどぬーる濡れマスク
6. アベノマスク
7. エアリズム
8. 540805 お好みのサイズに調整して使用できる、 抗菌・洗えるマスク
9. THE MASK
10. URBAN AIR MASK 2.0 - Onyx Black
11. 子ども用ガーゼマスク
12. 立体型マスク II

参考文献・協力

○いわしや松本市左衛門「呼吸器広告」1879年 宮武外骨編『文明開化(第2 廣告篇)』半狂堂、1925年

○北多摩薬剤師会 おくすり博物館 [日本のマスクの歴史概説] 日本のマスクの歴史と、独特な「マスク文化」の形成について

https://www.tpa-kitatama.jp/museum/museum_yowa2.html

○ 「社会 時代を映すマスクの歩み」 毎日新聞

<https://mainichi.jp/maisho/articles/20210405/kei/00s/00s/018000c>

○ 読売新聞オンライン「日本人も昔からマスク好きだったわけではない」

<https://www.yomiuri.co.jp/column/chottomae/20201028-OYT8T50038/>

○ The history and science of mask-wearing

Madhuri Srinivasan

Posted on Jun 08, 2020 in HEALTH & MEDICINE, COVID-19 and SCIENCE HISTORY

○ 社会 時代を映すマスクの歩み

2021/4/5

○ <https://www.jhpia.or.jp/product/mask/mask3.html> 一般社団法人 日本衛生材料工業連合会

○ <https://www.anna.gr.jp/about-cloth.php> ANNA 日本不織布協会